

2017/6/14

野辺山ウルトラ初完走記

砥上 雅夫

ウルトラマラソンは実は3回目。1回は完走したものの制限時間オーバー。1回は腸脛靭帯炎でリタイヤ。今回の野辺山は5年ぶりのリベンジマッチ。

前は馬越峠の頂上のエイドでリタイヤ。5年前より走力の自信はあったが怪我のトラウマは若干あり。

あくまでも完走が目的。楽しむまではいかなくても、気持ちに余裕を持ってゴールしたいと思って挑んだ。あと、14時間も暇なのであまり普段しないが、自分と向き合ってみようと思った。

今までいろいろな分岐点があり、結果いまここにいる。そしてなぜか100キロ走っている。

思えば走りだしたのは新浦安に引っ越してきてからだ。

地元を知るためには地元のイベントに出よう。という軽い気持ちで浦安マラソンにエントリー。すでに年が明けていて、駅伝に触発されて走り出したのが初めて。

2010年だったか。3キロしか走れず、すぐ息が上がり、体力のなさすぎる屈辱を味わい、焦り、何とか気持ちを奮いたたせて5キロ、7キロと徐々に距離が走れるように。そして少しずつ自信もついてきて、1か月かけて走れるようになる。

しかし普段走っていなかったせいか、膝がいたくなる。走れない。刻々と浦安マラソンが迫ってくる。やばい。てな感じで。

氏名	ナンバーカード	グロスタイム	ネットタイム	種目名	種目順位
砥上 雅夫	1523	2:05:40	2:04:41	ハーフ39歳以下男子の部	569/708

なんとか完走。

現役時代でも20キロも走ったことなかった。やればできることを実感。

感激は歴代一番かも。達成感でやめてしまうのは目に見えているので、そこから1か月にハーフマラソンをエントリー。

大会には、行ったことのない県で日帰りできる場所で楽しめること。

向上心を無理にあおらない。

地元の飯を食べる。

無理をしない。

とにかくマラソン大会がなければ一生行かないだろうというところに行って、

土地のものを食べる。

同じ目的の人たちがさまざまところからやってきて一緒に走る。

そして、また日常に戻る。

フルマラソン、トレイルラン、トライアスロンにもチャレンジしてできるようになった。

成長している。進化を感じられる。やればやるほど結果がつく。
走ることで自分の新しい日常が増えていく。このサイクルは素敵すぎる。
これは紛れもない趣味だ。
本気で遊べる趣味だ。
よくなんで走るのと聞かれることが多いが、それは趣味だから。と答える
辞書で調べるとやはり、

しゅ - み【趣味】

1 仕事・職業としてでなく、個人が楽しみとしてしている事柄。

出典 | [小学館デジタル大辞泉](#)について | [情報 凡例](#)

凄いシンプルな答えだ。走ることが楽しみ。だから走る。
なんで楽しいのか。
走るから楽しくなる。
走ると気持ちが良い。
だから一日走らないと気分が乗らない。
何日も走れないと欲求不満になる。
怪我をすると、気持ちが後ろ向きになる。
走っている人を見ると焦るし、うらやましくなる。
走ることが生活の一部となり日常となっている。
もう切り離すことができないくらいの趣味。
結果、野辺山で 100 キロ走れるようになった。ラッキーだった。いろいろな方々の支えと
偶然とが重なり、ウルトラランナーの仲間入りだ。本当に感謝。嬉しい。
でも完走した達成感や充実感よりも、またどこかで走れることのほうが楽しみだ。

以上